

京都市地区小学校教科書選定委員会 答申

「社会科」について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。
- 3 児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。
- 4 グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成に向け、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動が展開しやすいこと。
- 5 持続可能な社会の担い手として社会やくらしの問題に目を向け、社会の形成に参画する力を育てるとともに、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土に対する愛情を育むことに資する教材や活動が適切に取り上げられていること。
- 6 単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 7 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

調査研究の結果の概要

■東京書籍「新しい社会」

単元の初めに、図や想像図、写真が多く提示され、本文と共にそれらを見て気付いたことや疑問に思ったことを話し合う活動が設定されるとともに、子どものキャラクターの台詞や吹き出しを疑問形で示すことで、学習の方向付けや思考の視点を明確にしながら、児童が主体的・対話的に問いを設定できるよう工夫されており、優れている。

また、単元構成が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4段階に統一され、それぞれの段階において、協力して調べたり、調べたことを基に話し合ったりする活動が用意されるとともに、「まとめる」では、「まとめの活動にことばを生かそう」を設定し、重要な用語の活用を促すことで基礎的・基本的な内容の定着を図ることや、単元ごとに「表にまとめてキャッチコピーをつくる」「話し合ってノートにまとめる」などの豊富な言語活動が設定されており、思考力・判断力・表現力を育む学習が進めやすく、よく工夫されている。

「学習の進め方」のページにおいて、社会的な見方・考え方を「空間」「時間」「相互関係」「考え方」の4つの視点・方法に分類して解説した上で、単元内ではキャラクターの囲み表示で「市民と市議会はどのようなかわりがあるのかな（相互関係）」や「海津市の農業はどのように変わってきたのかな（時間）」などの見方・考え方が提示されており、児童が思考を広げ、身近な地域の課題を追究しやすく、優れている。

6年選択単元「震災復興の願いを実現する政治」では、東日本大震災を取り上げ、国や自治体の取組によって復興・復旧が進められていることや、震災後のまちづくりだけではなく、震災の教訓を未来に伝えていくことの大切さについて理解を深めたり、「いかす」の学習において、新聞記事の資料から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたこと、投票率が低い状況であったことを示し、地域の人の願いを表現する手立てを考えたり、行動したりするなど、地域や社会の形成に参画することの重要性を理解できるよう工夫されており、優れている。

他教科との関連については、「風水害への取組」の学習で理科の「天気の変化」を、「貴族のくらしの中から生まれた文化」で国語科の「日本の文学」を関連する学習として示すなど、各教科等との関連が具体的に意識できるよう工夫されている。

■教育出版「小学社会」

単元の冒頭に興味をひくようなイラストや写真を掲載しており、児童は単元のイメージをもちやすく、学習内容への関心を高めやすい。また、身近な社会的事象の関わりの中から、児童自らが問題を発見し、解決方法を考え、発信する活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指すとともに、調べる学習の中に調査活動の様子を示した写真を掲載しており、児童が具体的・視覚的にイメージしやすいよう工夫されている。

単元の「まとめる」のページでは、調べてきたことを図や表、関係図やカードにまとめるといった活動とあわせて、まとめたことを基に話し合ったり、説明したりする活動が設定されており、思考力・判断力・表現力を育成する手立てとなっている。

一方、巻頭の「社会科の学習の進め方」では、学習問題の追究・解決のプロセスとして、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の流れが示されているが、単元内では「つかむ」「調べる」における学習過程が明記されておらず、児童にとっては、どの段階の学習を行っているのかが分かりにくい。

巻頭の解説ページで、社会的な見方・考え方を「時期や変化」「場所や広がり」「工夫や関わ

り」「比べる」「関連づける」「総合する」の6つの視点・方法に分類して示しているが、各単元では、児童キャラクターの発言の中に溶け込ませる程度にとどまっており、見方・考え方を働かせた学習を展開しづらいことが想定される。

6年選択教材「災害からわたしたちを守る政治」では、東日本大震災を取り上げ、復興・復旧に向けた取組や災害から命を守るための町づくりについて、同「雪とともに生きる暮らしを支える政治」では、雪に関する課題解決を通したまちの発展について気付かせているが、身近な地域の課題や社会的な課題に目を向け、考え、行動させるための工夫が十分とは言えない。また、3年生の巻頭の「生活科をふり返ろう」で生活科との接続、連携が重視されているが、3・4年生の巻頭では、都道府県名に使う漢字の読み書きが国語と、グラフを読み取ることが算数と関連することなど、他教科と関わる事実のみが示されており、学習内容の具体的な関連までは示されておらず、児童が内容にまで踏み込んだ関連性を意識しづらい。

■日本文教出版「小学社会」

単元の初めに写真や図、想像図などを見て疑問に感じたり、比べて気付いたりしたことを話し合う活動が取り入れられているとともに、単元冒頭では、学習問題と併せて「調べたいこと」や「調べ方」などを示す「学習の計画」欄が提示されており、問いの設定に至るまでの過程が重視された単元全体の学習の進め方が明確であり、児童が意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。また、「わたし（たち）の問題」「学習問題」「さらに考えたい問題」と問いが深まっていく三層構造で問いの設定が統一されており、学習進度に沿って、基礎的・基本的な内容の定着と概念形成が図ることができるなど、よく工夫されている。

単元末では、学習問題について話し合う場面が設定されるなど、学習の中に言語活動、話し合い活動が取り入れられやすいよう工夫されており、思考力・判断力・表現力を育成する手立てとなっている。

巻頭の「教科書の中のいろいろなコーナー」では、社会的な見方・考え方を「空間」「時間」「関係」の3つの視点に分類して解説し、単元内では、各時間で示されている「問い」と関連付けて、「日本はどのような地形といえるのだろうか（空間）」や「日本の輸出額はどのような変化をしているだろうか（時間）」など、具体的に示されており、見方・考え方を働かせながら、課題を追究する学習を展開しやすいよう工夫されている。

5年「環境とわたしたちの暮らし」では、四日市喘息について取り上げ、当時の時代背景とともに、環境を守り、きれいな空気を取り戻すための取組について学習した後、児童による大気汚染調査が今も進められていることが示されており、環境保全活動への参加や節電、リサイクルの実行など、日常においてできることを児童にも考えさせ、社会参画意識を高められるよう工夫されている。また、他教科等との関連については、「学び方・調べ方コーナー」で道徳の内容項目である礼儀や公德心などと関連付けた内容を示すとともに、「わたしたちの学びを生かそう」では、総合的な学習と発展的に関連させていくことが提案されているなど、工夫されている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点	東京書籍	教育出版	日本文教
1	基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。	1 用語・語句の取り上げ方や説明の適切さ	◎	○	◎
		2 情報の集め方、読み取り方、まとめ方の工夫	○	○	△
2	習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。	1 課題を追及・解決する学習の進め方の提示	○	△	○
		2 知識・技能の活用を促す課題の設定	○	○	○
		3 説明したり議論したりなどの言語活動の重視	◎	○	○
3	児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。	1 主体的・対話的な学びに向けた工夫	◎	○	○
		2 探究意欲を高める工夫	○	○	◎
		3 発展的な学習活動を促すための工夫	○	○	◎
4	グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成に向け、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動が展開しやすいこと。	1 社会的な見方・考え方に関する記述	◎	△	○
		2 問題解決的な学習の充実を図るための工夫	○	○	○
5	持続可能な社会の担い手として社会やくらしの問題に目を向け、社会の形成に参画する力を育てるとともに、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土に対する愛情を育むことに資する教材や活動が適切に取り上げられていること。	1 社会やくらしの問題に目を向け、社会の形成に参画するための工夫	◎	△	○
		2 領土に関する記述	○	○	○
		3 伝統文化の重視	○	○	○
6	単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの観点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。	1 単元構成の系統性・発展性	○	○	○
		2 他教科や教育課題等との関連	◎	△	○
		3 他校種との接続	◎	△	○
		4 家庭・地域との連携	○	○	○
7	基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1 人権教育の推進	○	○	○
		2 道徳教育の推進	○	○	○
8	表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文章や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫	○	○	○
		2 ユニバーサルデザインの視点	○	○	○
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○
		4 用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○

【社会】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

発行者名		
2 東書	17 教出	116 日文
<p>○本文外の「ことば」欄で、学習上重要なキーワードを取り出し、解説を加えて示すとともに、単元末の学習のまとめにおいても、「まとめの活動にことばを生かそう」を設定して、キーワードを再度示し、その活用を促すなど、基礎的・基本的な内容の定着を図るよう工夫されており、優れている。</p> <p>○教科書の随所に、「まなび方コーナー」が配置されており、「グラフを読み取る」「年表を読み取る」「フローチャートにまとめる」など、情報の集め方、読み取り方、まとめ方などの学習技能が系統的に習得できるよう工夫されている。</p>	<p>○単元においてポイントとなる言葉や概念を本文中で太字標記するとともに、重要語句については、別枠の「キーワード」で解説を付すなど、重要語句の意味理解を促しながら学習内容を習得できるよう工夫されている。また、身近な社会的事象の関わりの中から問題を発見し、解決方法を考え、発信する活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。</p> <p>○教科書の随所に、「学びのてびき」が配置されており、資料の読み取り方や地図の書き方、着眼したいポイントなどの学習技能が分かりやすく記載されている。また、各所に調べたことや気付いたこと、疑問などを書く欄が設けられ、知識の定着に有効な手立てとなっている。</p>	<p>○本文に併設した別枠「キーワード」において、学習で重要となる用語を取り上げ、文章だけでなくイラスト等も用いて解説するなど、視覚的にも意味理解が深まるよう工夫されている。また、「わたし（たち）の問題」「学習問題」「さらに考えたい問題」と問いが深まっていく三層構造で問いの設定が統一されており、学習進度に沿って、基礎的・基本的な内容の定着と概念形成を図ることができるなど、よく工夫されている。</p> <p>○教科書の随所に、「学び方・調べ方コーナー」が配置されており、調べ方のポイントやノートの書き方、資料の読み取り方などが示されているが、グラフの読み取り方が画一的になりがちで、情報収集に関わる工夫が弱い。</p>

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。

発行者名		
2 東書	1 7 教出	1 1 6 日文
<p>○単元構成が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4段階に統一されており、「つかむ」で設定した問いに関連する学習内容について調べ、調べたことを書いて発表したり、疑問点について話し合ったりするなど、学習の流れが一貫しており、言語活動や問題発見・解決的な学習が展開しやすい。</p> <p>○「まとめる」学習においては、「まとめの活動にことばを生かそう」として、単元内で示した重要用語が再掲されており、学習で重視してきたキーワードを改めて確認するなど、習得した知識・技能が活用できるよう工夫されている。</p> <p>○単元終盤の「まとめる」の学習段階では、単元ごとに「表にまとめてキャッチコピーをつくる」「話し合ってノートにまとめる」などの豊富な言語活動が設定されており、学習を通して思考力・判断力・表現力を高められるよう、よく工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「社会科の学習の進め方」では、学習問題の追究・解決のプロセスとして、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の流れが示されているが、単元内では「つかむ」「調べる」における学習過程が明記されておらず、児童にとっては、どの段階の学習を行っているのかが分かりにくい。</p> <p>○「まとめる」の学習においては、学習したキーワードを生かしながら学習内容を整理する活動が用意されるなど、習得した知識・技能の振り返りと活用を促す指導が進めやすい。</p> <p>○単元の「まとめる」のページでは、調べてきたことを図や表、関係図やカードにまとめるといった活動とあわせて、まとめたことをもとに話し合ったり、説明したりする活動が設定されており、思考力・判断力・表現力を育成する手立てとなっている。</p>	<p>○単元冒頭で、学習問題と併せて「調べたいこと」や「調べ方」などを示す「学習の計画」欄が提示されており、単元全体の学習の進め方が明確になるように工夫されている。また、1時間ごとに学習内容を深めていくための「問い」が示されており、思考力・判断力・表現力を育成する手立てとなっている。</p> <p>○単元のまとめの段階で提示されている話し合う活動において、何について話し合うのかや話し合いの進め方の視点が、児童の既習事項を取り入れた発言として示されており、知識・技能を活用した言語活動を展開する手立てとなっている。</p> <p>○「見方・考え方コーナー」、「やってみよう」で話し合いの視点が記載されており、学習の中に話し合い活動が取り入れられやすいように工夫されている。また、単元の終末には学習問題について話し合う場面が設定されており、言語活動を促している。</p>

【選定の観点3】

児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。

発行者名		
2 東書	1 7 教出	1 1 6 日文
<p>○単元の初めに、図や想像図、写真などが多く提示され、本文とともにそれらを見て気付いたことや疑問に思ったことを話し合う活動が設定されており、児童が主体的・対話的に問いを設定できるよう工夫されている。併せて、子どものキャラクターの台詞や吹き出しを疑問形で示し、学習の方向づけや思考の視点を明確にしており、優れている。</p> <p>○児童相互の話し合いや討論の場面が数多く提示されており、児童の対話的な学びが促されるとともに、それらを通して多様な視点や多角的な考え方が身につくよう工夫されている。また、ノートにまとめたり、キャッチコピーにまとめたりするなど多様な活動が例示されており、探究意欲を高める工夫が見られる。</p> <p>○6年「願いを実現する政治」では、多くの人々の多様な意見を取りまとめていくために気をつけるべきことを考える学習が用意されているなど、各単元の「いかす」では、学んだことを生かして自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりすることをねらいとした発展的な学習を促す場面が設定されている。</p>	<p>○単元の冒頭に興味をひくようなイラストや写真を掲示しており、児童は単元のイメージをもちやすく、関心を高めやすい。また、調査活動の様子を示した写真を掲載するなど、具体的・視覚的に学習活動を提示しており、児童が見通しをもって取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○各ページに「この時間の問い」を掲載することで、学習への動機付けや方向づけを行いやすいよう工夫されている。また、単元を「まとめる」ページでは、年表や関係図、表にまとめるなど、多様な表現活動が提示されており、様々な表現方法の習得とともに、振り返りの学習を促している。</p> <p>○5年「森林とともに生きる」の単元では、募金やボランティア等、自分たちで実践、行動できることの中で、特に優先して取り組みたいことを考えたり、話し合ったりする学習が提示されているなど、各単元の「まとめる」段階の学習において、学んだことを踏まえて、自分たちにできることを考え、選択・判断するなど、発展的な学習を促す活動が設定されている。</p>	<p>○単元の初めに写真や図、想像図などを見て疑問に感じたり、比べて気付いたりしたことを話し合う活動が取り入れられるとともに、問いの設定に至るまでの過程が重視されているため、児童が意欲的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○単元の序盤で児童が問いを設定し、その問いに対して調べ学習を重ねた後、調べたことを踏まえた新たな問いを「さらに考えた問題」として設定するという学習の流れになっており、児童の探究心が重層的に高まる有効な手立てとなっている。</p> <p>○各単元に「わたしたちの学びを生かそう」が設定されており、5年「わたしたちの食生活を支える食料生産」の単元では、和食を切り口として、普段の生活や身近なところに伝統や文化が受け継がれていることの理解を促すとともに、6年生の歴史学習「室町文化」と関連付けたり、総合的な学習や食育など、様々な学習に発展的に繋げることができるよう工夫されており、優れている。</p>

【選定の観点4】

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成に向け、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動が展開しやすいこと。

発行者名		
2 東書	1 7 教出	1 1 6 日文
<p>○「学習の進め方」のページで、社会的な見方・考え方を「空間」「時間」「相互関係」「考え方」の4つの視点・方法に分類して解説した上で、単元内においてはキャラクターの囲み表示で「市民と市議会はどのようなかわりがあるのかな（相互関係）」や「海津市の農業はどのように変わってきたのかな（時間）」などの課題が提示されており、児童が思考を広げ、身近な地域の課題を追究しやすく、優れている。</p> <p>○豊富で印象的な図や写真を示したり、様々な仕事や活動に従事する人々の話を通して、その人たちの思いや願いへの共感的な理解を促したりしながら、自分ならどのように考えるか、何を選択するかなどを考える学習課題を設けることで、児童の学習意欲を高め、主体的な問題解決に繋げることができる。</p>	<p>○巻頭の「社会的な見方・考え方」を解説するページでは、社会的な見方・考え方を「時期や変化」「場所や広がり」「工夫や関わり」「比べる」「関連づける」「総合する」の6つの視点・方法に分類して示しているが、各単元では、児童キャラクターの発言の中に溶け込ませる程度にとどまっており、見方・考え方を働かせた学習を展開しづらい。</p> <p>○全体を通して、豊富な写真やイラストが大きく掲載されており、児童が学習のイメージをもちやすく、また、教科書見開きページごとに、「この時間の問い」と「次につなげよう」が示されることによって、各時間の学習と次の学習の継続性を意識でき、単元に見通しをもつことで、主体的に学習課題に取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「教科書の中のいろいろなコーナー」のページで、社会的な見方・考え方を「空間」「時間」「関係」の3つの視点に分類して解説した上で、単元内においては、「日本はどのような地形といえるのだろうか（空間）」や「日本の輸出額はどのような変化をしているだろうか（時間）」などの形で、各時間で示されている「問い」と関連付けて示されており、見方・考え方を働かせながら、課題を追究する学習を展開しやすい。</p> <p>○写真や図、年表などの資料が充実しており、また、児童の吹き出しにおいて、資料の見方に繋がる発言を示すなど、資料を使って主体的に課題を追究・解決していけるように工夫されているとともに、「さらに考えたい問題」や「さらに気になったこと」が示され、新たな問題意識を喚起し、主体的な問題解決につなげることができる。</p>

【選定の観点5】

持続可能な社会の担い手として社会やくらしの問題に目を向け、社会の形成に参画する力を育てるとともに、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土に対する愛情を育むことに資する教材や活動が適切に取り上げられていること。

発行者名		
2 東書	1 7 教出	1 1 6 日文
<p>○6年選択単元「震災復興の願いを実現する政治」では、東日本大震災を取り上げ、国や自治体の取組によって復興・復旧が進められていることや、震災後のまちづくりだけではなく、震災の教訓を未来に伝えていくことの大切さの理解を深めている。また、その後の「いかす」の学習において、新聞記事の資料から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたこと、投票率が低い状況であったことを示し、地域の人の願いを表現する手立てを考えたり、行動したりするなど、地域や社会の形成に参画することの重要性を理解できるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○5年「世界のなかの国土」で領土の範囲や領土問題について、写真、地図、文章で記載されるとともに、「やってみよう」のコーナーでは、国土を構成する島々や周りの国々、日本の東西南北端の確認など、資料を活用して領土の理解を深めるよう工夫されている。また、6年「新しい日本 平和な日本へ」では、領土をめぐる問題とともに、日本が周りの国との友好関係を築く努力をしてきたことも示されており、領土への理解や国際協調の大切さに気付かせる指導が進めやすい。</p> <p>○6年「今に伝わる室町文化」では、書院造が現在の和室につながっていることや、能・狂言が無形文化遺産に登録されていることに触れるとともに、「室町文化を体験してレポートを書こう」の学習では、茶の湯の体験学習の様子が詳しく例示されており、体験的な学習を促すことで生活文化に息づく日本の伝統と文化を実感し、受け継いでいこうとする意欲・態度を育めるよう工夫されている。</p>	<p>○6年選択教材「災害からわたしたちを守る政治」では、東日本大震災を取り上げ、復興・復旧に向けた取組や災害から命を守るための町づくりについて、また、同「雪とともに生きる暮らしを支える政治」では、「雪」の課題を解決しながら町を发展させてきたことについて取り上げているが、子どもたち自身が身近な地域の課題や社会的な課題に目を向けて、考えたり行動したりすることを促すための工夫が不十分である。</p> <p>○5年「日本の国土と世界の国々」では、写真を用いて日本の領土を線で囲む活動が設けられたり、対馬の写真に「人々が住み続けることは、島の土地や歴史を守り、国土を守ることにもつながる」という解説が付されたりしている。また、領土と排他的経済水域の広さを他国と比較することで、我が国が多くの島々で構成されている海洋国家であることを捉えることができるように工夫している。6年「平和で豊かな暮らしを目ざして」では、領土をめぐる問題だけでなく、朝鮮通信使に関する記録が世界記憶遺産に登録されたことが取り上げられるなど、他国との友好な関係を築くことの大切さに気付かせる指導が進めやすい。</p> <p>○6年「室町文化と力をつける人々」では、祇園祭と狂言が人々のくらしの中から生まれた文化として取り上げられ、写真や狂言師のコメントが、室町文化と現在の文化のつながりに児童が気付く手立てとなっている。また、「まとめる」の学習では、「外国から日本にきた旅行者をおもてなしするつもりになり、室町時代に生まれた文化について、学習したことを生かして説明しよう」という活動が設けられ、外国語科の学習と関連づける工夫が見られる。</p>	<p>○5年「環境とわたしたちのくらし」では、四日市喘息について取り上げ、当時の時代背景とともに、環境を守り、きれいな空気を取り戻すための取組とともに、単元末では児童によって今も大気汚染調査が進められていることが示されており、環境保全活動への参加や節電、リサイクルの実行など、日常においてできることを児童に考えさせ、社会参画意識を高める指導を進めやすい。</p> <p>○5年「世界から見た日本」では、日本の位置と範囲を「主に緯度と経度で説明する」「主に大陸と海洋や海で説明する」「主に隣り合っている国で説明する」など、様々な表現での説明を促しており、国土の特色が理解できるよう工夫されている。また、欄外「やってみよう」で北方領土等について地図帳の活用を促し、児童が主体的に調べる中で理解できるように工夫されている。6年「新しい日本へのあゆみ」では領土に関して、日本政府が慎重に対応していることに触れたり、5年生で学習した「領土・領海・領空・排他的経済水域」を再度取り上げたりするなどして、用語や領土への理解を深められるよう工夫がなされている。</p> <p>○6年「今に伝わる室町の文化と人々のくらし」では、単元冒頭に大判で「洛中洛外図屏風」と京都市の地図が示され、本市の児童にとっては、室町時代と現代の京都市をつなげて捉えやすい。また、能や狂言は人々の生活の中から生まれた伝統芸能であることや、茶の湯、生け花は、室町時代から今に続く生活文化であることに気付かせるとともに、「今度、おばあさんに生け花を教えてもらおう」という吹き出しが、日常生活に根づく伝統文化への興味を高める手立てとなっている。</p>

【選定の観点6】

単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。

発行者名		
2 東書	1 7 教出	1 1 6 日文
<p>○各学年・各単元の単元構成や紙面構成が統一され、どの学年、どの単元でも同じように問題解決的な学習を進めやすい。また、単元末には「いかす」が設定され、3年では「農家・工場・商店に提案文を書く」、4年では「まちのよさを伝える」、5年では「情報モラルを振り返るクイズづくり」、6年では「自分たちができる国際協力」など、提案・発信する活動が位置づけられており、社会との関わりを重視した学習が進めやすい。</p> <p>○第6学年の「歴史」から「グローバル化する世界と日本の役割」の内容をつなげるような記述があり、歴史的背景から国際社会へ目が向くように工夫されている。</p> <p>○「風水害への取組」の学習で理科の「天気の変化」を、「貴族のくらしの中から生まれた文化」で国語科の「日本の文学」を関連する教科学習として示すなど、国語、算数、理科、外国語等との関連が学習するページにマークで示されており、他教科との関連を具体的に意識できるよう、よく工夫されている。</p> <p>○巻末に「中学校に向けて」のページがあり、写真を用いて地理・歴史・公民の学習内容を示した上で、中学校の学習内容が小学校の学習内容を発展させたものであることに気付かせたり、中学校社会科で主体的に学習したいことを書く活動が設けられたりするなど、中学校での学習への期待や意欲を持ちやすく、優れている。</p> <p>○第5学年「くらしを支える食料生産」の産地調べでは、家庭からスーパーマーケットのチラシを持ってくるなど、子どもたちの暮らしに根付いた事実から社会的な事象へと問題意識を広げていけるよう工夫されている。</p>	<p>○3年「わたしたちの市のあゆみ」では、市の様子の移り変わりや商店の働きの学習を結びつけ「人口減少」という社会的な課題に児童の目が向くように工夫されている。同様に、5年「未来をつくり出す工業生産」では、工業生産の学習にとどまることなく、「高齢化や人口減少」「共生社会」「環境」「国際化」などの社会的な課題と関連付けながら学習するなど、発展的な活動が進めやすい。</p> <p>○第4学年では「廃棄物」の次に「飲料水」の単元を配列することで、飲料水と廃棄物を関係付けて考える場面を設定し、児童の思考が深められるよう工夫されている。</p> <p>○3年生の巻頭の「生活科をふり返ろう」で生活科との接続、連携が重視されている。また、3・4年生の巻頭では、都道府県名に使う漢字の読み書きが国語と、グラフを読み取ることが算数と関連することなど、他教科と関わる事実のみが示されており、学習内容の具体の関連までは示されていない。</p> <p>○巻末に「6年生の学習をふり返ろう」のページがあり、中学生になったら「地理」「歴史」「公民」を学習することが書かれているが、中学校での学習が示されておらず、具体的な学習内容を想起しにくい。</p> <p>○5年生の自分たちの生活が、様々な情報に囲まれて成り立っていることに気付く学習では、その出発点を「家の人へのアンケート」とするなど、家庭と学校での学びを結びつける配慮が見られる。</p>	<p>○単元の導入で児童のキャラクターが素朴な疑問や発言を示した後、例えば5年「情報社会に生きるわたしたち」では、「お母さんは、会社に行く前に新聞を読んで…」「新聞は、くり返し読むことができる…」「どんな記事を書けるのか、どうやって決めているのかな」など、児童キャラクターが着目した視点に沿って思考を深めていく過程が示されており、児童の疑問や問題意識の幅を広げたり、深めたりする活動が進めやすい。</p> <p>○第5学年では「環境」「森林」「自然災害」の順に単元が配列され、「環境」という広い視野から「森林」の大切さに気付かせるとともに、そのことから、「自然災害」の防災・減災に繋がることに気付かせるなど、自分にできることを連鎖的に考えられるよう工夫されている。</p> <p>○「学び方・調べ方コーナー」で道徳の内容項目である礼儀や公德心などと関連付けている。また、「わたしたちの学びを生かそう」では、総合的な学習と発展的に関連させていくことが提案されている。</p> <p>○巻末に「中学校の社会科では、どんなことを学ぶのかな」のページがあり、中学校の社会科は「地理」「歴史」「公民」の3つの分野に分かれていることを写真も用いて説明されている。また、中学校で学びたいことをカードにまとめる活動を提示し、中学校の社会科への学習意欲を促しやすい。</p> <p>○3年「安全なくらしを守る人々の仕事」では、地域の人たちを招いて安全マップについて発表する学習活動や、地域のお年寄りに安全を呼び掛ける吹き出しが見られるなど、地域の人々に開かれた活動が提案されている。</p>

【選定の観点7】

基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名		
2 東書	17 教出	116 日文
<p>○国際交流を多く取り上げ、外国に関心をもてるようにしている。</p> <p>○コラムで、身分上差別されてきた人々のことを継続的に取り上げ、人権について継続的に考えていけるよう工夫されている。また、お年寄りや障害のある人が暮らしやすい町を取り上げたり、スーパーマーケットにおける障害のある人に対するサービスを取り上げたりして、自分自身の生活と人権との関わりについて考えられるよう配慮されている。</p>	<p>○国際交流について取り上げ、外国との交流に関心をもてるようにしている。</p> <p>○コラムや資料で、アイヌの人々や琉球王国の人々、渋染一揆、平塚らいてう、マララさんなど、人権尊重や男女平等に関わる歴史的事象や人物を取り上げ、今日の人権問題についても、考えが深められるように工夫されている。また、目の不自由な人が安心して歩くために、点字ブロックがあることや、誰もが安心して暮らすための公共施設を取り上げたりするなど、自分自身の生活と人権の関わりについて考えられるよう配慮されている。</p>	<p>○外国人が多く暮らす地域を取り上げ、身の回りの外国人の存在に気付けるようにしている。</p> <p>○エルトゥールル号の遭難と救助活動やオリンピック・パラリンピックと世界の国々について取り上げ、平和や命の尊さに気付かせるとともに、障害のある人のための信号ボタンや、スーパーマーケットにおける、障害のある人に対するサービスを取り上げるなど、自分自身の生活と人権との関わりについて考えられるよう配慮されている。</p>

【選定の観点8】

表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名		
2 東書	17 教出	116 日文
<p>○文字はUDフォントを使用し、ページ構成や字体などが統一されており読みやすくしている。各ページの資料には、大きく通し番号が付されており、指示が分かりやすい。</p> <p>○再生紙・植物油インキを使用し、カラー・ユニバーサル・デザインの観点から全ページにわたり淡い色を基調とし、半透明等を用いて配色およびデザインに配慮している。</p> <p>○本の寸法はA B版である。裏表紙に文字が多い傾向がある。5年生は、上下分冊にし、重量負担を軽減している。</p> <p>○本文と資料がはっきりと区別できるようにレイアウトされ、重要な箇所は文章を枠囲みにしたり、文節で改行したりするなど、全ての児童に見やすく読みやすい紙面になるよう工夫されている。</p>	<p>○文字はUDフォントを使用し、ページ構成や字体などが統一されており読みやすい。各ページの資料には、通し番号が付されており、指示が分かりやすい。</p> <p>○再生紙・植物油インキを使用し、カラー・ユニバーサル・デザインの観点から全ページにわたり淡い色を基調とし、半透明等を用いて配色およびデザインに配慮している。</p> <p>○本の寸法はA B版である。「○○さんの話」などは、塗りつぶしとなっているが、見えにくさは感じない。</p> <p>○本文の内容が充実しており、絵や写真、図などの資料がバランスよく配置されている。また、重要な用語・語句はキーワード欄に記したり、太字にしたりするなど、読みやすく工夫されている。</p>	<p>○フォントは不明だが、ページ構成や字体などが統一されており見やすい。各ページに、資料に大きく通し番号を付け、指示しやすくしている。再生紙・植物油インキを使用し、カラー・ユニバーサル・デザインの観点から全ページにわたり淡い色を基調とし、半透明等を用いて配色およびデザインに配慮している。</p> <p>○本の寸法はA B版である。裏表紙に文字がほとんどなくシンプルである。全体的に淡い色使いである。</p> <p>○絵や写真などの資料が豊富であるとともに、本文中には関連する資料番号を付しているため、照合しやすい。また、重要事項を太字ゴシック体で表記したり、キーワード欄で説明したりするなど、大切な言葉や事項が分かりやすく工夫されている。</p>

※UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント